

II-172 海岸の環境アメニティ資源に関するアンケート調査

山口大学工学部 正員 浮田正夫、古賀清隆、正員 中西 弘
九州環境管理協会 正員 ○内田唯史

1. はじめに

最近、ウォーターフロントに対する関心が高まり、水辺の価値が重要視されている。本研究では、博多湾の海岸に対する福岡市民の意識を調査した。詳細な解析は別に譲り、ここではその結果概要を報告する。

2. 調査方法

(1) アンケートの内容

アンケートは、博多湾の代表的地点のカラーグラビアを見ながら回答してもらう形式をとった。図1、表1に最終的に抽出した地点を示した。質問内容は、12海岸それぞれについて、好感度、景色、自然とふれあい、遊び、出会い、アクセス性、水質など諸要素の良否や利用状況、利用目的等である。また、海岸のアメニティを経済評価するために、入場料支払意志や開発に伴う復元代償費用の負担意志を問う項目も加えた。

(2) 調査期間

調査期間は平成3年11月15日～11月17日である。配布方法は訪問面談依頼で、1世帯に3枚のアンケート用紙を配り、郵送法で回収するという方法を用いた。福岡市内53カ所で、人口に比例した枚数を配布した。配布枚数は全体で2,970枚で、配布世帯数は990世帯であった。

(3) 解析方法

単純集計のデータについて以下の2通りの加工を行い、各項目間の相関等による解釈を試みた。

- 1) 好感度等については、「好ましい」、「どちらかといえば好ましい」、「どちらかという好ましくない」「好ましくない」の重みを、それぞれ87.5、62.5、37.5、12.5とし、荷重平均値 y を求め、次式により100点満点の評点を算出する。 評点 = $(y - 50) \times 100 / 87.5 + 50$
- 2) 支払意志の金額評価等については、各段階額の中央値を重みとして、総平均値の算定を行った。ただし最低ランクについては、支払意志なしを設けなかったのでヒストグラムの形を考慮した重みを与えた。

3. 調査結果

全体の回収率は、世帯数で36.2%、アンケート用紙の枚数で24.9%であった。

(1) 属性 年齢層は10代が8.0%であるのを除いてはほとんど均等に分かれた。同様に、性別は女性がやや多めである。職業については、サラリーマン(34.2%)と主婦(32.4%)が大半を占めた。また、生活のゆとりについては、どちらかといえばある(52.4%)、どちらかといえばない(29.2%)の2つで全体の8割以上を占める。全体的にサンプルに大きな偏りはないものの、面談依頼によったこと、回答に時間を要するアンケートであったことから、やや余裕のある層の回答が多いものと考えられる。

(2) 博多湾の利用状況 年に1～2回程度からマリゾン、ベイサイドの年に4～5回程度の利用頻度である。住宅地の近くの海岸では毎日散歩する人の影響で頻度が高めに出ている。また入場料支払意志と実際の

表1 博多湾調査対象海岸の概要

海岸名	海岸のタイプ	利用等
自然域		
西の浦	自然海岸 磯浜	釣り、散策
生の松原	自然海岸 砂浜	海水浴、散策
志賀島	半自然海岸 砂浜	海水浴、散策
大原海岸	半自然海岸 砂浜	海水浴、釣り
緩衝域		
海の中道	半自然海岸 砂浜	公園、スポーツ、散策
小戸	人工海岸	公園、ヨットハーバー
和白干潟	自然 干潟	潮干狩り、探鳥
名島	半自然海岸 干潟	潮干狩り、住居
マリゾン	人工海岸 砂浜	ジョギング、レストラン
ベイサイド	人工海岸	ジョギング、レストラン
都市域		
香椎団地	人工海岸	住居、散策
箱崎埠頭	人工海岸	産業、釣り

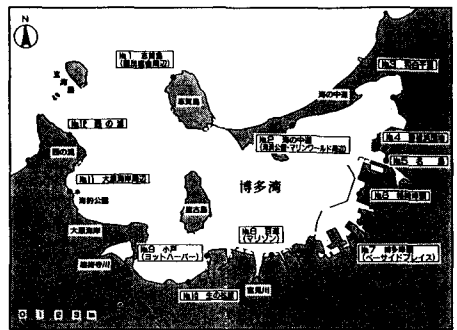


図1 調査対象海岸

利用支出との間には相関が見られた。利用目的はそれぞれの海岸の特徴を反映した結果を示すが、散策はどの海岸でも一定の割合を占めている。産業生活型海岸ではその他用途が比較的多い（図2）。

（3）海岸の好感度 自然海岸を好ましいと答えた人が多く、人工的アメニティを備えた海の中道、マリゾンも比較的人気が高い。それに対して、香椎団地、箱崎埠頭といった生活・産業地域は人気が低い。好感度と景色、水質等は相関が高く、ベイサイド、マリゾンではショッピングや人との出会いの要素が自然とのふれあいの少なさを代償している。水のきれいさについての回答は実際の水質をよく反映している（図3、4）。

（4）海岸の経済評価 好感度にはほぼ対応して、入場料支払意志が示された。自然海岸については好感度の割に入場料支払意志は低く（図5）、復元費用負担意志で大きめ傾向があり、人工アメニティ海岸では逆の傾向がある。また実際の利用支出と入場料支払意志の間には相関がある（図6）。

（5）博多湾の開発について 全体として開発に消極的な意見が67%と多かった。また、海岸がすべて一様になった場合、海岸の魅力度が半減あるいは全部なくなるとする人の割合は、マリゾン型で81%、ベイサイド型で89%、自然型で30%である。なお、自然型一様の場合は半分近くの人が倍増すると答えている。

4. おわりに

博多湾を対象に、海岸アメニティ資源の評価に關する市民意識調査を行い、以下のような結論を得た。

- 1) 自然の評価が意外に高く、好感度には景観が大きい影響を与えることがわかった。
- 2) 自然保全を軸として、多様なアメニティ資源を提供していくことが大切である。
- 3) 好感度と入場料支払意志や復元費用負担意志には相関がある。また入場料支払意志と実際の利用支出との間にも相関が認められた。

